

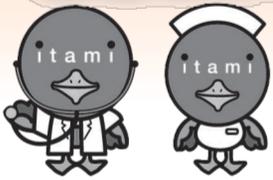
みんなが健康の 第一人者になろう!

～患者さんもチーム医療の一員です～ No.3

itami

市立伊丹病院特集号

令和5年2月15日 市立伊丹病院
〒664-8540 伊丹市昆陽池1丁目100番地
TEL: 072-777-3773 (代表)



伊丹市マスコット たみまる

市民の皆さんの健康づくり・疾病予防に貢献するため、当院が取り組む医療や身近な疾病に関する情報を、当院の医師やスタッフがわかりやすくお伝えします。

肝臓の生活習慣病 ～肥満は肝臓にとっても大敵です～

消化器内科

健診で肝機能異常は最も多い異常の一つです。AST、ALT、γGTPといった肝機能を表す数値が異常高値となっても自覚症状はありません。しかし血液中にAST、ALT、γGTPが高値になるということは肝臓の細胞が壊れていることを意味します。原因疾患のC型肝炎、B型肝炎といったウイルス肝炎は治療薬が開発され減りつつあります。アルコール性肝障害は飲酒が原因です。その他に肥満による脂肪肝があります。人類は有史以来ほぼ食糧難の時代を過ごしてきたこともあり、肝細胞は血液中の余分な栄養分、特に中性脂肪を蓄える仕組みがありますが、その貯蔵量が多くなりすぎると肝細胞が壊れて肝機能異常となります。肝細胞が中性脂肪を多く蓄えた状態が脂肪肝です。

肥満は高血圧症、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症といった生活習慣病の原因となり、動脈硬化を引き起こし脳卒中、心筋梗塞の原因となります。生活習慣病は肝臓では脂肪肝を引き起こします。多くの脂肪肝は体重を減らせば治ります。

当科の肝疾患を主に診ている筆者の外来でも3割程度の患者さんに脂肪肝があります。体重が多い人には毎回減量を勧めますが、なかなか真剣に取り組んではいただけません。高度の脂肪肝の状態が長期間続くと肝硬変から肝不全、肝癌を引き起こすことがあること

が知られています。肥満で増加する死因は心血管系疾患が最多ですが、肝臓を悪くして死に至ることもあります。そうならないためには減量が必要です。減量するには食事量を減らすことが最も有効です。

体重が減らせた患者さんに減量の方法を聞きますと、ほとんどの方が食べる量を減らされています。食べる量を減らすことが出来ないことが病気のように思えます。肥満が原因で生活習慣病となっている方にとっては、美味しい食べ物が皮肉にも身体にとっては悪影響を及ぼしていることとなります。肥満は肝臓にとっても死に至る病です。



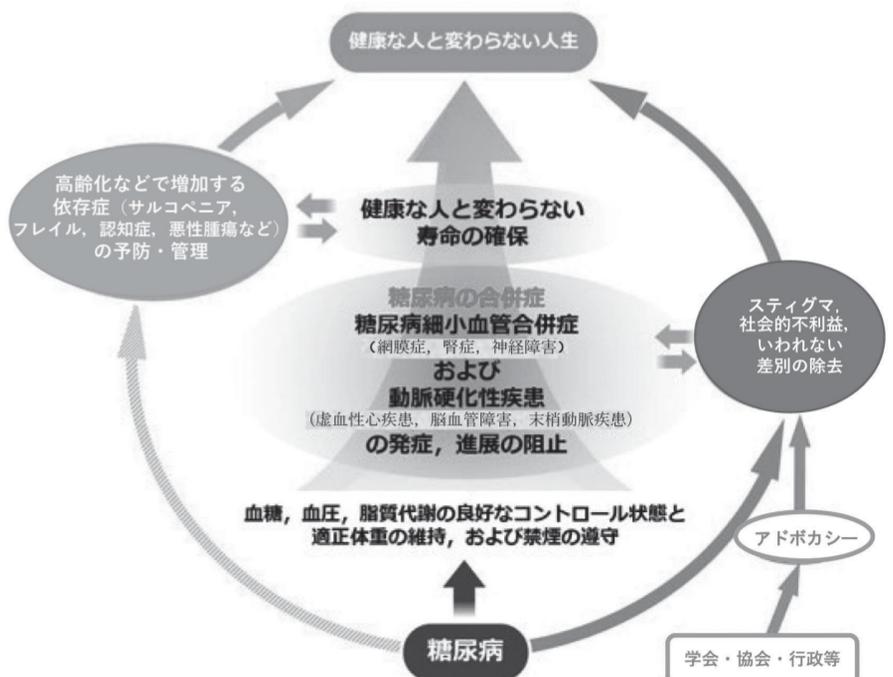
「糖尿病」の名称変更? ～スティグマとアドボカシー～ 糖尿病・内分泌・代謝内科

ご覧になられた人も多いかと思いますが、先日、日本糖尿病協会の理事長が「糖尿病」という病名には偏見が伴っている現状があり、名称を変更してはどうかと問題提起をしたことが一斉に新聞・テレビなどのメディアをにぎわせました。確かに尿に糖が出ていなくても糖尿病である場合があるし、逆に尿に糖が出ていても糖尿病でない場合もあるので非常にややこしい! 糖“尿”病という名前は正確に病気を表していないじゃないか。そんな病名は変更してしまえ! というのは分からなくもありません。しかも糖尿病を患っていると加入できる生命保険が限られてしまうとか、就職で差別されるのではないかという意見もありました。いずれにせよ、特定の疾病を理由にしたどんな差別もあっていいものではありません。そういえば、「糖尿病って甘いものを食べ過ぎた肥満の人がかかる病気なんじゃない?」などとお質問をいただくことがあります。でも実は、「好き放題食べたから糖尿病になってしまう」ケースはそれほど多くありません。

そんな一方的な偏見(スティグマ)を打ち破りたい。患者さんたちのそういう切実な思いがこの問題提起の根底にあるようです。そのため患者さんに対する偏見を少しずつでも解消していこうとするムーブメントとして、現在、協会と学会とが連帯して「アドボカシー(擁護・弁護)運動」を展開しています。これから皆さんもいろいろな場面で目にされるのではないかと思います。

「糖尿病」の名称変更は以前にも提唱されたことが何度もありま

したが、うまくいきませんでした。現在、広く定着している名称が「適切」な名前にちゃんと変更できるのかどうかはまだわかりませんが、「糖尿病」というだけでいわれのない偏見や不利益を被らない社会に是非ともしていきたいものです。



出典:日本糖尿病学会編・著:糖尿病治療ガイド2020-2021,文光堂,2020,P.31

「食物アレルギー」ってご存知ですか？

小児科

本来、体にとって良いもののはずの食べ物を摂取すると、免疫が勘違いして体にとって不利益な反応を起こすことがあり、これを食物アレルギーといいます。具体的には体が赤くなったり、蕁麻疹が出たり、咳や喘鳴(ゼーゼー)、腹痛といった症状があります。程度が強いと顔色が悪くなってぐったりしたり、失禁することもあります。

今回は“こどもの”食物アレルギーについて少しお話ししたいと思います。

食物アレルギーの有病率はこの20年ほどで2倍以上に増えてきています。ひと昔前までは、アレルギー検査が陽性であればとりあえず完全除去といった指導がされていました。しかし、最近は「必要最低限の除去」という考え方が広がってきています。これは一言で食物アレルギーと言ってもその程度は人それぞれで、まったく食べられない人もいれば、ある程度のところまでは食べられる人もいるということが分かってきたからです。また完全除去をしてただひたすら自然に食べられるようになるのを待つよりも、食べられる範囲内で積極的に食べ進めた方が、早く治ることが多いということも分かってきました。

食物アレルギーの診断には「食物経口負荷試験(Oral Food Challenge;OFC)」がすごく大事です。(今回の私の記事の中で

最も重要なことを今から述べますが…)アレルギー検査の結果だけで食物アレルギーの診断はできません。大切なのはOFCを行うことです。OFCというのは、病院で実際にアレルギーがあるものや疑わしいものを食べて症状が出るかどうかを確認する検査のことを言います。実際に食べて確認するわけですから、最も正確な検査ということになります。

OFCによって、食物アレルギーの有無や安全摂取可能量を知ることができます。食物アレルギーを管理するうえで、OFCは必要不可欠なものと言っても過言ではありません。そんなOFCを当科では原則日帰り入院で、医師の監督の下、安全に配慮しながら行っています。

OFCを希望される方、一度詳しく話を聞いてみたい方はかかりつけの先生からの紹介状を持参のうえ、当科までご相談ください。



低侵襲緑内障手術について

眼科

当院眼科では今年度より白内障と同時に進行低侵襲緑内障手術を開始しました。

◆緑内障とは

緑内障は目の奥の神経が傷んで見える範囲(視野)が狭くなり、放置していると最終的に失明に至る病気で、現在我が国の中途失明原因の第一位です。40代以上の20人に1人、70代以上の10人に1人がかかると言われています。緑内障の原因には目の硬さ、すなわち眼圧が大きく関わっており、緑内障は眼圧をさげる治療となります。

◆点眼治療について

まず最初に行うのは点眼薬です。緑内障の点眼薬にも色々あり、目標とする眼圧になるまで種類を変えたり、複数の点眼薬を使って調整します。現在は本来2種類の点眼薬だったものを混合した目薬があるため、以前より点眼薬の調整がしやすくなりました。

しかし中には点眼薬で十分な眼圧下降が得られない、手指の衰えのため点眼手技が難しい、物忘れが増えてきたため必要な回数がさせないなどの理由で点眼治療が困難な方が増えていきます。そこで必

要となってくるのが緑内障手術です。

◆緑内障手術について

緑内障手術は従来は手技が難しく時間がかかり、短期的にも長期的にも合併症の多い手術でした。しかし近年、より負担の少ない緑内障手術が開発されました。低侵襲緑内障手術は白内障手術と同時に行われることが多く、白内障手術の時と同じ傷口から手術するため新たな傷口を増やす必要がなく、時間も白内障手術時間に10分程度追加すれば終了するため短時間です。効果は従来手術法と比べると弱く、点眼薬が1本減らせる程度の眼圧下降効果とされていますが、比較的安全なため、白内障のある方で緑内障の点眼薬を複数さしている方にはおすすめです。

ただし緑内障の種類によっては適応でない場合もあり、眼圧が非常に高い場合などは従来の緑内障手術が必要となるので、まずはご相談ください。手術に際してはこれまでの病状や治療歴等が必要のため、当院で手術相談希望の方はかかりつけ医の紹介状を持ってご来院ください。

認知症疾患医療センターから耳寄りなお話

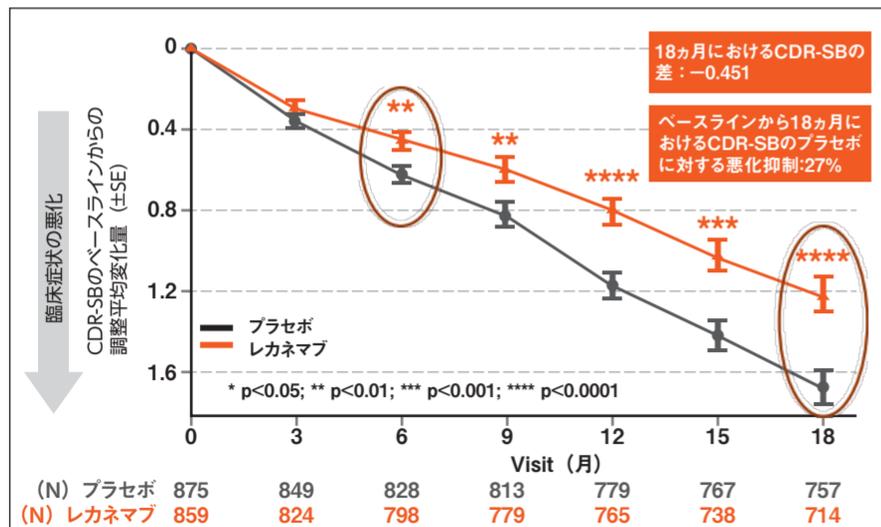
市立伊丹病院
認知症疾患医療センター(地域型)

誰しも高齢になると物忘れが増えてきます。年齢のせいであれば病気が原因で物忘れが増えたり、できていたことができなくなる場合、認知症といいます。認知症の原因で一番多いのはアルツハイマー病です。アルツハイマー病では脳にアミロイドβが溜まることがわかっていますが、今までそれを防ぐ有効な薬がありませんでした。

2022年11月29日、アメリカの権威ある医学雑誌に、早期アルツハイマー病の治療薬候補「レカネマブ」の臨床第Ⅲ相試験の結果が報告されました(注1)。

【図1】のグラフからわかることは、早期のアルツハイマー病の人が「レカネマブ」の投与を受ける(上の赤線)と、受けない場合(下の黒線)に比べて認知症の悪化が18カ月で27%抑えられたということです。この結果に基づくシミュレーションでは、「レカネマブ」投与によって、アルツハイマー病が軽度にとどまる期間を2.5~3年延長できそうです。これは認知症の当事者にとっても、家族にとっても、社会にとっても、大変意義のあることだと思います。

すでにアメリカでは2023年1月7日に米国FDA(食品医薬品局)により迅速承認されています(注3)。日本では2023年1月16日に申請されたばかりです。すべての認知症患者さんに使えるわけではなく、あくまで早期のアルツハイマー病の方が対象ですが、その方々には大変有望な治療薬だと思います。当センターでは、「レカネマブ」が使えるようになったとき、きちんと対象となる方を見分け、適切に治療できるよう体制を整えて参ります。



【図1】主要評価項目CDR-SBのレカネマブ投与による変化(18カ月)
出典:エーザイ株式会社HP ニュースリリース 2022年11月30日(注2)

(注1) November 29, 2022 DOI: 10.1056/NEJMoa2212948
(注2) 抗アミロイドβプロテオフィブリル抗体「レカネマブ」の早期アルツハイマー病に対する臨床第Ⅲ相Clarity AD検証試験結果を第15回アルツハイマー病臨床試験会議(CTAD)において発表(エーザイ株式会社HPニュースリリース2022年11月30日)
(注3) LEQEMBI™(レカネマブ)、アルツハイマー病に対する治療薬として米国FDAより迅速承認を取得(エーザイ株式会社HPニュースリリース2023年1月7日)

遺伝子診療センター紹介

遺伝子診療センター

◆遺伝子医療とは

ゲノムは生物が持っている遺伝情報の全体を指す言葉ですが、個体のゲノム情報を調べて、その結果をもとに、より効率的効果的に疾患の診断・治療・予防などを行うことを『遺伝子医療』といいます。遺伝子を調べる検査は、がんゲノム検査のように体内のある細胞(例えばがん細胞)だけに起こっている遺伝子変異を調べる検査と、親から引き継いでいる遺伝子変異を調べる検査があります。



遺伝子診療チームのスタッフ

◆遺伝性のがんを知る

最もよく知られている遺伝性がんとして、遺伝性乳がん卵巣がん(HBOC)があります。HBOCの原因となる遺伝子の変異を親から引き継いだ場合、家系内に乳がんや卵巣がんなどのがんが発症しやすいといわれています。遺伝子検査により、自身のがんの発症のリスクを知ることによって、がんの発症予防や早期発見、早期治療につなげることができます。

◆遺伝子診療センターの役割

遺伝性のがんだけでなく、遺伝に関わる悩みや不安・疑問などを持つ人に対し、専門の医師や遺伝カウンセラーが科学的根拠に基づく正確な医学的情報を分かりやすく伝える部門として『遺伝子診療センター』を2022年4月より開設しています。今後、遺伝性がんやその他の遺伝性疾患だけでなく、がんゲノム医療などにも対応できる体制の構築を目指していきます。



テレビ局の取材を受ける榎本センター長

がん相談支援センターをご存じですか？

がん相談支援センター

がん相談支援センターは、がんでお悩みの患者さんやご家族の方など院内・院外を問わず誰でも安心して相談できる窓口です。がんになると、「頭が真っ白になり、何も考えられない」「仕事は続けられるのかな」など、いろいろな不安や悩み事が出てくると思います。このような不安を相談してみませんか。電話でも相談可能です。「がん相談希望」とお伝えください。相談は無料です。また、相談された内容が、ご本人の了解なしに担当医をはじめ他の病院スタッフに伝わることはありません。どうぞ安心してご相談ください。

Q:何時からあいていますか。予約は必要ですか。

A:平日の9時から17時までです。予約は不要です。相談中の場合は、少しお待ちいただくことがありますので、ご了承ください。

Q:同じようながんの患者さんたちが集まる会は、ありますか。

A:「くすのき会」という患者会があります。がん患者さんやご家族の交流の場として講座や談話会を開催しています。2ヶ月に1回開催していますが、現在、コロナの感染対策でお休みしています。また開催できるようになりましたら、当院のホームページでお知らせいたします。詳しくは、がん相談支援センターにお声がけください。



Q&A

Q:がん相談したい時は、どこへ行けばいいのですか

A:正面玄関に入ってすぐ左(ローソンの手前)にがん相談支援センターがあります。もしもがん相談支援センターの入り口が閉まっているときには、総合案内で「がん相談にきました」とお伝えください。

特定行為看護師とは・・・?

看護部

「特定行為看護師」をご存じですか？

特定行為看護師は、保健師助産師看護師法第37条に規定され、厚生労働省「特定行為にかかる看護師の研修制度」による所定の研修を修了した看護師の呼称です。当院には、4名の特定行為看護師が活動しています。特定行為看護師は、医師の作成した手順書に従い、より難易度の高い診療の補助(特定行為)を行います。それにより、医師の判断を待たずに病態を判断し、安全性の高い医療をより迅速に患者さんへ提供することが可能となります【図2】。



【図2】厚生労働省リーフレット「これからの医療を支える看護師の特定行為研修制度のご案内」(医療関係者の皆さまへ)より引用改変

では、診療の補助である「特定行為」とは、なんのでしょうか？

医師の診療の補助の範囲で看護師が行える医療行為のうち、特に実践的な理解、思考力及び判断力、高度かつ専門的な知識・技術が必要と定められた21種類に分けられた38の行為のことです。当院では、特定行為看護師により10種類【図3】に関連する21の特定行為を実践しています。

さらに、当院は特定行為看護師の研修協力機関として、他施設の研修生を受け入れております。今年は、3名が研修しており、当院で研修を修了した特定行為看護師が、各々の施設で安全で質の高い医療を実現し活動できるように支援しています。

私たち特定行為看護師は、医師・薬剤師・栄養士・臨床工学技士などの他職種と協力して患者さんが安全・安楽な入院生活を過ごせるように日々取り組んでいます。何かご質問やご不明な点がありましたら、当院の1階患者相談窓口にお問い合わせ下さい。

特定行為看護師

当院では、厚生労働省「特定行為に係る看護師の研修制度」を修了した看護師が、医師とともに予め作成した手順書(指示)により、一定の診療の補助(特定行為)を実施しています。

- 当院で実施している特定行為
- ・気道の確保 に関連する 特定行為
- ・人工呼吸療法 に関連する 特定行為
- ・中心静脈カテーテル管理 に関連する 特定行為
- ・創部ドレーン管理 に関連する 特定行為
- ・動脈血液ガス分析 に関連する 特定行為
- ・栄養及び水分の管理 に関連する 特定行為
- ・感染に係る薬剤投与 に関連する 特定行為
- ・術後の疼痛管理 に関連する 特定行為
- ・循環動態に係る薬剤投与 に関連する 特定行為
- ・精神及び神経症状に係る薬剤投与 に関連する 特定行為

皆さまのご理解・ご協力をお願いします。

特定行為に関するご相談、お問い合わせ先
1階 患者相談窓口 月～金曜日 9:00～17:00
市立伊丹病院

【図3】当院で実施している特定行為

こんにちは！心不全支援チームです！！

心不全支援チーム

心不全とは、心臓が悪いために、息切れやむくみ、だるさを感じる症状などがでてきて、生命を縮めてしまう病気です。また日本では、がんに次いで、2番目に死亡数が多く、心不全になってしまうと治療しないとされています。しかし、心不全であっても水分制限や減塩などの食事管理や生活管理を注意し、うまく心不全と付き合うことで進行を遅らせることができるといわれています。

うまく心不全と付き合うといっても、高齢化や様々な社会背景がある患者さんがいるため、全てを管理することは難しい場合があります。そのため、心不全患者さんやご家族において、医療スタッフのいろいろな視点で介入を考えることが大切であり、当院では、循環器内科医師・慢性心不全看護認定看護師・心不全療養指導士・薬剤師・医療ソーシャルワーカー・理学療法士などが連携し、心不全支援チーム（HST:Heart failure Support Team）を設立しました。心不全支援チームの介入で、心不全をもちながら少しでも長く、その人らしく生活して頂けるようサポートに努めていきます。現在は

当院通院患者さんや入院中の患者さんのみ対応を行っていますが、今後、地域の開業医の先生方や他施設の方々と連携しながら心不全患者さんを支えていければと考えていますのでよろしくお願い致します。

こんにちは！心不全支援チームです！！

心不全とは、心臓が悪いために、息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気です。当院での心不全患者も高齢患者が多いためだけでなく様々な併存疾患を持ち社会背景に問題がある患者が増加しています。そのため今後、その心不全患者や家族において、様々な視点から考える多職種での介入できる方法や退院後の支援が共有できる地域連携が必要とされています。

活動内容

月1回（第4月曜日）15時より病棟へお邪魔させていただきます。

例えば…

- ・心不全があるのに、床頭台の上に醤油や塩などの調味料がたかさん！
- ・心不全があるのに、床頭台の上にお茶やジュースがたかさん！
- ・起坐呼吸や喘鳴などの症状でしんどそう。
- ・心不全の情報提供・指導や教育をしたいけどどうしていいかわからない。…等

メンバー 医師・認定看護師・療養指導士・薬剤師・理学療法士・MSW・栄養士 他

心不全患者様・家族のサポートをさせていただきます。

または一緒に介入方法を考えさせていただきます。

是非 お気軽に ご相談下さい！！

心不全支援チーム
病棟ラウンド用ポスター

リエゾンチーム紹介

リエゾンチーム

「リエゾン」とはフランス語で「連携」や「連絡」を意味する言葉です。リエゾンチームは身体疾患にともなう様々な精神症状に対して、多職種からなるチームで対応を行います。具体的には、身体疾患により当院へ入院中の患者さんに生じた、せん妄、不眠、抑うつ、不安や認知症をもつ方の行動心理症状、産後うつを代表とした周産期に生じる精神的つらさなどに対して加療を行います。すなわち、他科と「連携」し、多職種からなる「連携」したチーム医療を行っております。

当院では本チームは令和2年度に発足し、チームメンバーは、精神科医師、老年内科医師、認定看護師、薬剤師、公認心理師、作業療法士、理学療法士、管理栄養士、精神保健福祉士と文字通り、多職種となっております。活動内容としては、日々のリエゾン診療に加え、毎週、チームカンファレンスおよび全病棟でケースカンファレンスを

行っております。超高齢社会を反映してか、認知症をもつ方に生じたせん妄や行動心理症状への依頼が多数を占めております。

これからもチーム一同精進し、認知症や精神疾患をもつ方が安心して入院できるように病棟を目指して参りますので、どうかよろしくお願い申し上げます。



リエゾンチームのスタッフ

人工関節センターより

整形外科

加齢で下肢の関節が消耗されて変形を来す、変形性膝関節症や変形性股関節症によって、立ち上がりや階段の上り下り、歩行などがしにくくなります。このような変形性関節症のほか、関節リウマチ、骨壊死などによる下肢の関節機能障害に対して人工関節置換術は、痛みを取り除いて日常生活動作を改善する最も有効な手術とされています。高齢化社会を迎えた日本では、人工膝関節置換術は年間約10万件、股関節置換術は約7万件行われ、10年前と比べて1.5～2倍程度に増加しており、標準的な手術となっています。

当院の整形外科・人工関節センターでは、安全で安心な治療を提供するために、関連各部署が連携する周術期管理チームを形成し、入院前検査から手術、そして退院まで患者さんをサポートします。当院は総合病院ですので、術後に様々な合併症が生じて、各診療科と連携することで専門的な治療が可能であり、安心して手術を受けることができます。術後のリハビリテーションについても、手術翌

日から理学療法士が介入することによって早期の機能回復を図っています。術後約3週間で自宅への退院を目指しますが、連携している回復期リハビリテーション病院への転院も可能です。その場合は、当院の地域医療連携室のスタッフが対応します。

当院では令和3年に約600件の人工股関節・膝関節置換術を行わせて頂きました。整形外科クリニックで人工関節の手術が必要と言われてお悩みの方は、経験豊富な当院へ是非ご相談下さい。なお、当科は完全予約制のため、受診希望の際はお近くの整形外科クリニックより予約をしていただく必要があります。

	令和元年	令和2年	令和3年
人工股関節置換術	222件	237件	245件
人工膝関節置換術	379件	330件	349件
合計	601件	567件	594件

当院の人工関節手術件数

転ばぬ先の杖 ～川柳で転倒予防～

転倒予防チーム

伊丹市が「上島鬼貫」の出自でもあり、伊丹市民の中には俳句の文化が浸透していることに着目し、今年度、転倒予防チームは、院内掲示で川柳を使った転倒予防啓発を行いました。当院職員から転倒予防に関する川柳を募り、昨年12月に院内掲示した作品の中で、特に好評を得た川柳を紹介させていただきます。

いかがでしょうか。思わずハッとするような内容だと感じますよね。作品の作者は「自分もつかりすることがあるから、この句で皆さんもふと気をつけてもらえたら嬉しいです」と振り返っています。老若男女問わず、誰しも転倒する可能性があります。是非一度、この句を思い出して、転ばぬ先の杖となれば幸いです。

● 足下と 口にもほしい 滑り止め

● よく確認 躓く石も 縁の端